

## ミドルリーダーの育成にむけて —あらためて研修のススメ—

学校支援総括兼理科研修班班長 安座間 安史

当教育センターでは、これまでも長期研修、夏期短期研修、経年研修、法定研修などをととして「授業力の向上」「教師力の向上」にむけた支援を行ってきたが、新たに本県の喫緊の教育課題である児童生徒の「確かな学力の育成」に向けた学校への直接支援として、今年度より本格的に「出前講座」や「学校支援プログラム」そして「講演会・実践報告会」などに取り組んできた。去る2月5日（土）には、この一年間の取組で得られた成果と課題を多くの関係者と共有し、今後の学校の課題解決に向けた取組の一助になればとの趣旨で、「すぐに使える教育情報満載」のキャッチフレーズのもと研究発表会・講演会を行なった。

年度末の多忙な時期にも関わらず、多くの学校や教育機関から400名を超す先生方に参加いただき盛況裏に終える事ができた。参加者からは「すぐに使える教材・教具の紹介や資料の提供は助かった」「学校の課題解決に向け大いに役立つ情報を得ることができた」など概ね好評であった。

ところで、今回の発表会での参加者の声やアンケートからは、あらためて多くの先生方が近年の学校教育を取り巻く環境の激しい変化への対応や、新たな教育課程への対応など、教科指導、学級経営、生徒指導や進路指導など、それぞれの場面で課題を抱えながら日々の対応に追われているとの声を聞くことができた。また、この一年間の学校支援の取組を通して、課題解決のためには改めて全職員のベクトルを一つに

することの重要性を再認識させられた。各々の学校で課題の内容や深刻さの程度は異なるかと思うが、その解決にむけて、まずは管理者による課題の明確化と解決に向けた手だてや方向性の明示、そして全職員の共通理解と協働意識に基づき、ベクトルを揃えた具体的な活動を根気強く継続することが重要である。その実現のためには職員会議や校内研修の充実に加え、その牽引役となるミドルリーダーの存在が大変重要になることは言うまでもない。

さて、教育センターでは先にも述べたように様々な研修を行っているが、教科指導や生徒指導、進路指導などの日常的な教育実践力を高めるためには、その基本的な知識や進め方に加え、時代を反映した新たな課題をじっくり検討する時間が必要である。こうした課題解決のための長期研修の意義は大きなものがあり、実は今回の発表会で提供した多くの教材・教具やコンテンツ、そして資料の大半がこれまでの長期研修員と主事による協同研究で開発されたものである。そして何よりも、当時の長期研修員の多くが、現在は各学校で管理者やリーダーとして活躍されていることを付け加えておきたい。

研修は教員の義務である。学校における人材育成、特に学校経営におけるミドルリーダーの育成の視点からも、あらためて校長先生方には積極的に長期研修を薦めていただき、そして若い先生方には自らの教師力の向上のために積極的な長期研修の活用を望みます。

### \*\*\*\*\* もくじ \*\*\*\*\*

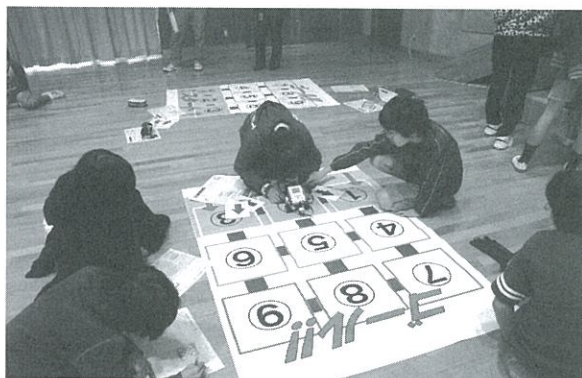
- |                                               |       |
|-----------------------------------------------|-------|
| ● ミドルリーダーの育成にむけて — あらためて研修のススメ —              | — 1 — |
| ● 平成 22 年度調査研究テーマ『確かな学力』を育成する取組               | — 2 — |
| ● 授業を支援するツール「電子黒板」・校務を支援する「中学校版生徒情報管理システム」    | — 3 — |
| ● 教育経営研修班 出前講座の取組                             | — 4 — |
| ● 小学校理科講座の案内 — 年間を通して体系化した「自主講座」と「夏期短期研修講座」 — | — 5 — |
| ● 障害特性に応じた指導・支援への対応 — 特別支援教育班『出前講座』の活用方法 —    | — 6 — |
| ● 先端技術装置・生徒実習                                 | — 7 — |
| ● 研修を終えて                                      | — 8 — |

# 平成22年度調査研究テーマ『確かな学力』を育成する取組 「学校の教育力向上を目指す実践的研究を通して」

本教育センターは、「発信し出かける教育センター」を目指し、学校現場に活かしていただける教育実践に関する様々な研究に取り組んでまいりました。平成22年度は、昨年度に引き続き、調査研究テーマを「『確かな学力』を育成する取組」と統一し、その研究の柱を「出前講座の充実」「学校支援プログラムの充実」「特別講演会等の実施」とし、学校現場への実効性のある積極的な支援を目指した研究を行ってまいりました。

まず、「出前講座の充実」については、平成21年度刊行した「出前講座活用ガイド」の積極的な周知により、学校現場から多くの依頼があり、平成23年2月末日現在で943回の出前講座を実施いたしました。次に、学校の教育力の向上を図るための方策としての「学校支援プログラムの充実」は、連携校の教職員の授業力向上に関する支援を通して行いました。さらに、「特別講演会等の実施」は、授業実践のあり方や学校の組織的取組の紹介など、現場の先生方のニーズをとらえた情報発信を目指しました。また、本県の教育関係者が「確かな学力の育成」について方策を考える機会になるよう、これまでに5回の特別講演会・実践報告会を実施いたしました。

このような本教育センターの調査研究事業をより多くの人に知ってもらおうと今年度の研究発表会は、教育関係者への積極的な呼びかけを行うと共に、休日開催とし、三部形式で行いました。第一部は、各班の学校支援活動や人気の出前講座の内容、教材・教具を紹介いたしました。



出前講座

第二部は、前述した調査研究の柱について「出前講座の充実」「学校支援プログラムの充実」

「特別講演会等の実施」の取組から見えることについて全体発表を行いました。

第三部は、文部科学省主任視学官、田中孝一先生による講演会を「新教育課程の勘どころー確かな学力の育成、言語活動の充実ー」の演題で行いました。



研究発表会第三部講演会 田中孝一視学官

研究発表会・講演会には、延べ402名の外部参加者があり、活気のある発表会を行うことができました。第一部のブース発表に関する参加者の感想として、「出前講座における学校支援の様子がわかった」「授業実践や校務管理に役立つ内容が盛り沢山で、今後の学校の取組に展望がもてた」等がありました。

第二部の全体発表に関する感想として、「連携事業を振り返ることができ、様々な支援や指導助言を受ける機会を多くいただいた事に改めて感謝。教員のベクトルを一つにするという点は大変参考になった」等がありました。

第三部の講演会に関する感想として、「新学習指導要領の改正に係わるポイントや新教育課程の内容が具体的に実感でき、とても分かりやすく、勉強になった」等がありました。

上記の参加者のアンケート等から、今回の研究発表会・講演会に対する高い評価をいただいたと考えております。

最後になりましたが、本教育センターの調査研究にご協力をいただきました連携校の校長先生をはじめ先生方、そして、授業実践等のご協力をいただきました研究協力委員の皆様に対しまして、心より感謝申し上げます。今後も学校現場にとって有益な研究となるよう取り組んでいく所存でございます。各学校及び教育関係機関の皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

## 授業を支援するツール「電子黒板」

## I C T 機器の活用

平成 21 年度に実施されたスクール・ニューディール構想により、本県の小中学校に電子黒板が多数導入されていますが、学校現場からは、導入された電子黒板の効果的な活用の仕方が求められています。電子黒板は多くのメーカーから製品化されていますが、現在 I T 教育班では、

ボード型と一体型の電子黒板を備えています。電子黒板を活用し、子どもたちに資料を大きく提示することで、大きな学習効果が期待できます。その他に電子黒板ならではの利点として、① P C の操作を画面上で行えるので、操作と子どもたちの視線を一致させることが可能となります。② 書いた文字は、後から拡大・縮小、移動や文字色の変更等が行えます。③ 書いた文字など、板書を保存することが可能なので、授業の振り返りや評価に役立てることが

できます。電子黒板の他にも、ワイヤレスペンタブレットもとても有効なツールだと考えます。ワイヤレスなので、ケーブル類を気にせずに P C から離れて操作ができるので、机間指導をしながらのプレゼン、説明等ができます。また、児童生徒に着席させたまま操作させることも可能です。

I C T 機器の積極的な活用が、教師の指導力に組み込まれることによって分かる授業につながります。これら I C T 機器を授業で効果的に活用できるように、学校現場のニーズに即した支援をしていきたいと考えています。



電子黒板（ボード型）



電子黒板（一体型）



ワイヤレスペンタブレット

## 校務を支援する「中学校版生徒情報管理システム」

## 校務処理の電子化

指導要録作成機能を加え、リリース準備中

校務の電子化は、現場の先生方の負担感を軽減し、子どもたちと関わる時間や教材研究の時間を確保することを大きな目的としています。

本システムは、中学校における校務の軽減を目的として平成 17 年に開発され、現在では県内 63 の中学校で活用されています。

主な機能は、①定期試験の集計②通知表の作成③学級関係諸資料の作成（名列票、住所録、家庭調査票など）④高校入試関係諸資料の作成（志願票、調査書、志願者名簿）があります。

さらに、付帯の出席簿管理システムを活用すると、生徒の出席状況管理が電子化され、集計や累計が容易にできるほか、個別の出席状況を瞬時に把握できるため、不登校などの早期発見にもつなげることが期待できます。

昨今、多くの学校現場から「指導要録の電子化」を望む声が、当班にも多く寄せられます。校務の情報化の観点からも、指導要録の電子化は大変有効であり、文部科学省も各都道府県にその推進を呼びかけています（平成 22 年 9 月文部科学省初等中等教育局教育課程課「指導要録等の電子化に関する参考資料(第 1 版)」より）。

こうした現場の声に対応するため、当班では現在活用されている本システムに、指導要録作成機能を付加し、公開に向けた準備を進めております。次のシステムは、長期研修員の研究報告や連携校での試験運用などを経て、動作確認などの様々な検証を行った上で正式公開する予定です。

指導要録や出席簿は公簿であり、その取り扱いや様式等については、設置者である市町村教育委員会が定めることになっています。そのため、これら公簿の電子化については市町村教委の理解と協力、学校との連携が大変重要です。当班ではこれらの課題も踏まえ、関係機関との調整を進めます。

さらに、研修会や出前講座を通して、未導入校での導入促進に向けた取り組みや、導入校におけるシステム活用に関する職員研修にも、これまでと同様、積極的に取り組んでまいります。

|         |                     |
|---------|---------------------|
| 公立中学校数  | 157 校(県 1, 市町村 156) |
| システム導入校 | 62 校                |
| 導入率     | 40.13%              |

システム導入状況(2011.3.1 現在)

# “障害特性に応じた指導・支援への対応”

## — 特別支援教育班『出前講座』の活用方法 —

本センターでは、平成21年度10月より「発信し、出かけるセンター」を目指して、学校支援の充実に向けた“出前講座”に取り組んできました。

特別支援教育班においても「障害のある幼児・児童生徒への指導・支援」「障害のある幼児・児童・生徒への連携した支援のあり方」の内容を中心に、各学校のニーズに合わせた形で研修及び事例検討会を行っています。特に、学校からのニーズが高い、幼児・児童・生徒への具体的な指導・支援に関しては、授業参観等を通して対象生徒の実態把握を行い、この結果を踏まえた行動観察・分析後の具体的な指導・支援への研修、幼児・児童・生徒個々への対応のための事例検討会やケース会議への助言等、幅広く取り組みを行ってきました。

このような取り組みの中、学校からは「どの場面で、どのように対応していくか」「生徒の行動の背景が理解できたことで、指導・支援の方法が明確になった」な

どの声も聞かれました。

下記に示す研修事例は、本班における出前講座をうまく活用し、発達障害の有無に拘らず、特別な教育的支援が必要な子どもへの対応を行ったものです。

### 出前講座活用事例

#### A 小学校 → 授業参観及びケース会議

研修内容→発達障害児のいる学級経営と授業実践について

研修後の感想

- ・生徒の問題行動の背景が理解できた。
- ・教室を含めた学習環境の設定の方法や発問の仕方などすぐにでも授業実践に活用したい。等

#### B 中学校 → 授業・学校生活全般の参観及び全体研修・ケース会議

研修内容→ADHDと診断された生徒への対応  
研修後の感想

- ・ADHDの障害の特性と行動が理解でき、本人にあった対応ができそうです。
- ・自分のやっていたことが差別化だということ、生徒への対応の振り返りができました。等・・・

## 障害の特性理解のための資料の紹介

本班では、障害の特性や障害の理解のための資料やその指導や支援のための教材・教具が多数あります。

今回は、「障害理解のための道徳教材」と「ビジョントレーニング」について紹介いたします。学校等でぜひ活用してみたい方は、総合教育センター特別支援教育班へ（TEL098-993-7526）ご連絡下さい。

### 障害理解のための道徳教材

障害のある子ども達が、自立と社会参加を目指していくためには、自己と他者を理解することは重要です。特に自己理解は、将来を見据えた進路とも関係してきます。「自分の得意なことは何か、苦手とするものは」等を理解しているのかの有無によっては、指導・支援が大きく変わってきます。さらに、周囲の人との関係性やまわりの人の理解も欠かすことができません。右記に示した教材は、中学校のコーディネーターが、障害の理解を各学年別で示し、活用したものです。学校の実態に合わせて活用をしていくことで、生徒の障害理解が深まります。ぜひ、活用してみてください！！

得意なこともあれば、苦手なこともあるはず。



理解のためのパワーポイント

- 資料1：個性って何だろう
- 資料2：誰もが特別なものをもっている
- 資料3：発達障害とは

## ビジョントレーニングのための資料

LD（学習障害）の子ども達の中には、見え方に困難さを示している場合があります。

このような困難さを示す背景には、眼球をうまく動かすことができず、何に焦点をあてていけば良いのかわからないといった子ども達があります。そのため「読めない」「形がわからない」など学習面や生活面での“困り感”を抱えています。このような見え方に困難さを示す子ども達の特性に応じた指導・支援の一つに『ビジョントレーニング』があります。ビジョントレーニングは、視覚機能に困難さを示す子どもの視覚機能の改善のために開発されたものです。本班では、学校や家庭で、気軽に視覚機能のトレーニングを継続してできる資料（ビジョントレーニングソフトウェア・パズル等）を貸し出しいたします。学校や家庭で気軽に練習をすることができまうので、眼球の動きが気になると感じた方はどうぞご利用下さい。

#### 教材内容

- ・図形認知を高めるためのブロック教材
- ・視覚機能訓練のためのソフトウェア

# 小学校理科講座の案内

～年間を通して体系化した「自主講座」と「夏期短期研修講座」～

今年度、当センター理科研修班では、学校支援の一環として、小学校理科専科の先生方を対象に、年間を通して現場の学習進度に合わせて体系化した「自主講座」（年間6回）と「夏期短期研修講座」（3日間）を実施しました。自主講座では、「観察・実験の基本的な内容」をはじめ、「すぐに授業で活用できる教材教具の紹介」を行ったところ、述べ99人（88校）の参加があり大変好評でした。新年度（平成23年度）は、小学校における新学習指導要領完全実施に対応し、さらに内容を充実させ、自主講座を年間12回実施します。

本講座は、各単元の実施時期に合わせ、教科書および理科研修班の作成した手引書の観察・実験について基礎からわかりやすく解説し、各単位にお

いて充実した授業実践のポイントをアドバイスします。また、実習中心のワークショップ形式で行い、特に初めて理科専科を担当した先生方が気軽に質問したり、他校の先生方と情報交換できる環境づくりをしています。さらに、平日開催の研修会等への参加が困難な状況をふまえ、勤務終了後の時間帯（金曜日の18:00～20:00）で設定しました。申し込みもFAXで簡単にできますので、ご自分の都合に合わせ気軽に参加できます。

日々がんばっている先生方に対し、より充実した授業実践ができるようお手伝いできたらと考えております。

是非、理科研修班の小学校理科講座を活用してみてください。

## 沖縄県立総合教育センター理科研修班 平成23年度 小学校理科講座 ～観察・実験の充実と「実感を伴った理解」を図る授業づくり～ 年間を通して授業をサポートします！

自主講座  
年間12回

+

夏期短期研修講座  
3日間

○学習進度に合わせて随時開催  
○約1ヶ月前にFAXおよびセンターHPIにて  
受講者募集のお知らせ  
○各自FAXによる申込

○今年度は7月27・28・29日  
○センターHPIにて受講者募集のお知らせ  
（4月～6月）  
○各学校でとりまとめて申込

| 月  | 講座テーマ（予定）                                                                                                                |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5  | 第1回 「植物の発芽と成長」「動植物のからだのはたらき」（5・6年）                                                                                       |
|    | 第2回 「電気のはたらき」（4年）                                                                                                        |
| 6  | 第3回 「メダカの誕生」（水中微生物の観察）（5年）                                                                                               |
|    | 第4回 「春夏の星空観察」（4年・理科全般）                                                                                                   |
| 7  | 第5回 「生物のくらしと環境」（6年）                                                                                                      |
|    | 夏期短期研修講座（7/27・28・29）<br>「ふりこのきまり」「もののとけ方」「花から実へ」「人の誕生」「流れる水のはたらき」「台風と天気の変化」（5年）<br>「てこのはたらき」「水溶液の性質とはたらき」「大地のつくりと変化」（6年） |
| 9  | 第6回 「月と太陽」（6年） 「夏秋の星空観察」（4年・理科全般）                                                                                        |
| 10 | 第7回 「物体の体積と力」「水のすがたとゆくえ」（4年）                                                                                             |
| 11 | 第8回 「電流がうみだす力」（5年）「発電と電気の利用」（6年）                                                                                         |
|    | 第9回 「栽培技術」（理科全般） *産業教育班との連携                                                                                              |
| 1  | 第10回 「冬の星空観察」（4年・理科全般）                                                                                                   |
| 2  | 第11回 「物の燃え方と空気」（6年）                                                                                                      |
|    | 第12回 「雲と天気の変化」（5年）                                                                                                       |

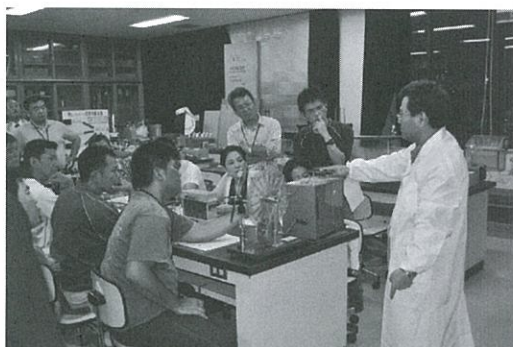
\* 自主講座の日時は基本的に金曜日18:00～20:00に設定します。



平成22年7月 「水中微生物の観察」



平成22年10月 「星空観察会」



平成22年11月 「発電と電気の利用」

## 教育経営研修班

## 出前講座の取組

本総合教育センターでは、平成21年度10月より出前講座事業を実施しています。

教育経営研修班では、教師の授業力の向上及び組織としての学校力の向上に資するため、学校や地域に直接出向き支援を行っています。以下、主な講座について紹介致します。

### 1 家庭学習の定着を図る取組・方策

#### (1) ねらい

学力向上を図る上で、日々の生活習慣を見直し、家庭学習を定着させることが重要です。本講座では「全国学力・学習状況調査」等の結果の分析から見える本県児童生徒の課題や、学力向上や家庭学習の定着のための方策を示し、家庭・教師・学校力の向上に資することを目的としています。

#### (2) 講座内容

「全国学力・学習状況調査」より、基本的な生活習慣の確立や家庭でのコミュニケーション、体験活動等と学力の相関が明らかになっていること。また、自己肯定感の重要性や、キャリア教育の重要性を説き、県内外の効果的な家庭学習の定着の取組を紹介します。

#### (3) 受講者の声（教師）

- ・大変興味深いものでした。勉強する本当の意味を生徒自身にしっかり考えさせたいと思いました。
- ・具体的な事例の紹介も豊富で、今後の工夫・改善に向けてイメージができた。



### 2 予防的・開発的教育相談の工夫

#### (1) ねらい

従来の対処療法的教育相談から、問題行動の未然防止や自己肯定感を向上させる予防的・開発的教育相談について学び、教師・学校力の向上に資することを目的としています。

#### (2) 講座内容

これからの生徒指導・教育相談の在り方について学び、「エンカウンター」「SST」「アサーショントレーニング」等の技法を学

び、児童生徒の自己肯定感を高め、社会的スキルを育むための講義・演習を行います。

#### (3) 受講者の声（生徒）

- ・自分のことを、皆が分かってくれてうれしかった。
- ・お互いにわかり合えた。今回のエクササイズは楽しかった。



### 3 夢と生きる力を支援するために

#### (1) ねらい

キャリア教育が求められる背景を理解するとともに、児童生徒の発達段階に応じた組織的・計画的・継続的なキャリア教育の実践の在り方を学び、教師・学校力の向上に資することを目的としています。

#### (2) 講座内容

各学校の実態、児童生徒の現状把握を行い、発達段階に応じたキャリア教育の実践のための講座です。また、キャリア教育を効果的に進めるためのキャリアカウンセリングの技法及び面接演習も実施します。

#### (3) 受講者の声（生徒）

- ・何度でもトライしていくと、夢は叶うと思いました。夢に近づけなくても無駄だったと思えない人生を送りたい。



最後に、本班では紹介した講座を含め8講座を開設しています。今後も、他班と連携しながらセンター全体で学校現場を支援していきたいと考えています。

## 先端技術装置・生徒実習 産業教育班

産業教育班では、産業教育に係る生徒実習を実施しており、今後の研修・実習の充実を図るため、導入されたシステムの紹介をします。

### ■録音・音楽編集システム

高音質での録音・音声編集が行える「プロが現場で使っている機器」で構成された録音・音楽編集システムです。

一般的な音楽スタジオに導入されている ProTools システムをベースに構成されており、プロが実際に音楽アルバムの制作等で使用している機器での実習が可能となっています。具体的には、併設された録音スタジオ内でのオーディオ（音声や楽器）と M I D I のレコーディングに加え、作曲や音楽ソースの編集、CD制作に向けたミキシングなどの作業がパソコンのソ

フト上で可能なシステムです。さらに付属のミキサーコンソールを使用すれば従来のようなミキサーを用いたスタジオ内のレコーディングやミキシング作業等が可能となります。この装置を用いた生徒実習では、最新の機器を用いた録音技術の実践力の習得に加え作曲作業等を通しての創造性および主体的態度の育成が期待できます。職員研修においては、音楽スタジオの操作を習得することで、専門分野の指導力・技術力の向上に加え文科系部活動等への実践的指導力と当装置の有効活用が期待されます。



ProTools システム



ミキサーコンソール

### ■デジタルマイクロスコープ

今回導入されたデジタルマイクロスコープは、視覚的に捉えにくい微細な物質や生物の観察によって興味・関心を高め、それらの事物・現象についての理解を深める授業への活用を目的として整備しました。

本機器（デジタルマイクロスコープ VHX-1000）は、「観る」「録る」「測る」の全ての機能を凝縮したオールインワン設計です。



デジタルマイクロスコープ VHX-1000

「観る」においては、光学顕微鏡には真似できない観察能力があります。深い被写界深度で立体観察が可能で、1800 万画素 × 3CCD モード

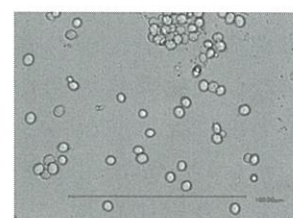
で優れた色再現性と超高精細な画像を得られます。17 インチの大型モニタにより拡大画像を多人数で同時に観察することも可能です。「録る」においては、観察画像をその場で他のコンピュータでも活用できるファイル形式で保存できます。また、動画録画やタイマー撮影など観察のバリエーションも豊富です。「測る」においては、画面上でリアルタイムに計測でき、距離や面積・角度など表示した状態で保存でき、教材作

成も容易に可能です。

レンズは（超小型高性能ズームレンズ・高解像度ズームレンズ）2 セットの仕様となっており、超小型高性能ズームレンズは、20～200 倍の倍率領域において観察距離 25.5mm と広く、また手持ち観察が可能など自由度の高い観察ができるレンズです。また、フリーアングル観察システムにセットすることで、観察時のユーセントリック性を優れています。高解像度ズームレンズは、500～5000 倍の倍率領域において観察距離 4.4mm、同軸落射照明によって光軸を一致させることで正反射する光量を増加させ、明視野観察をおこなうことができる光学系レンズのクラス最高の解像度ズームレンズです。



フナムシ × 200



酵母 × 2000

生命や物質の多様性や不思議さは、観察を通してしか認識できないともいわれています。この機器の導入は、高精度の観察や実験教材の作成が容易になり、学習指導の充実に多大な効果をもたらすものと期待しています。

## 研修を終えて



教科研修班 保健体育  
県立美里高等学校  
教 諭 屋 宜 栄 輝

半年間の研修生活を振り返ってみると、10月に教科研修員全員が一斉にスタートラインに立ち、右も左も分からない不安いっぱいの中、研修生活がスタートしたことが昨日のように思います。その研修生活を一言で表すと「発見」という言葉が、私にとってぴったりと当てはまります。

それは毎朝の清掃活動を通して、普段あまり気にもしていなかった花木から季節の移り変わりを発見できたことや毎月第4金曜日に行われたフラワーライデーなどで、長い歴史のある教育センターの花や緑が、これまで多くの所員や研修員の先生方によって維持管理されていることを知りました。

また、教科研修員の仲間たちからは、校種を超えた各学校の課題や生徒に対する熱い思いを改めて感じる事ができたこと。さらに、研修内容や検証授業について情報交換し、互いにサポ

ートし合うことで、共感して学び合うことの大切さを感じることができました。

特に、教科研修班の主事の先生方には、テーマ設定や検証授業、中間・最終成果検討会などで、担当研修員はもちろんのこと、教科の枠を超え全ての教科研修員に厳しくも温かなご指導助言、励ましをいただき、本当に多くの主事の先生方に支えられていることを痛感し、充実した研修生活を過ごすことができたことに大変感謝しています。

長期研修必修講座において、研究を進める上で学んだ5つのキーワード「オリジナリティー、時代を読む、還元性と日常性、文章への責任、ほう・れん・そう」を胸に、これからも新しいことにチャレンジして、「発見」する楽しさ・喜びを生徒たちと一緒に学んでいきたいと思いました。また、教育センターで学んだことを私たちは学校現場の同僚や生徒達に還元して、研修の必要性や重要性を発信していきたいと思っています。

最後に短い間でしたが、毎日充実した楽しい研修を送れたことに感謝します。本当にありがとうございました。



理科研修班 地学研究室  
県立浦添高等学校  
教 諭 玉 木 亨

早いもので半年の研修が終わろうとしている。30分の清掃活動からはじまる1日。忙しい主事を横目で見ながら過ぎる1週間。何にも進展がないのに、締め切りに追われる日々。野外実習では正体不明の「ジャンバラヤ」に期待した。チャーンがやってきて、卵を産み始めた。その6ヶ月が終わる。

学校では一つの単元に時間を掛けて、教材と向き合う時間を持つことは少なかった。研修では、あれこれと一つの教材に時間をかけ、試行錯誤ができた。より良い教材を作ることが本当

に楽しく、有意義であった。研修が単調なリズムで過ぎたわけではない。講演や講義・実習は、時間に変化をつけてくれた。固くなった頭を柔らかくした。主事からのアドバイスは適切で貴重だった。校種の違う仲間との会話は、たくさんの刺激をもらった。

私はこの研修で成長できた。たぶん、自己満足ではないと思う。もし、「研修後の教師は素敵だ」という仮説があるとしたら、それが正しいことになるよう、これからも頑張っていこう。研修でやり残したことはある。それは、学校に戻ってからやろう。そんな前向きな気持ちになった研修だった。最後に、担当主事をはじめ、一緒に頑張った研修員、センター職員、気持ちよく送り出してくれた校長、本校職員、研修に関わったすべての皆様に感謝申し上げます。